

# 名張市教育委員会事務の点検・評価報告書

平成31年 2月

名張市教育委員会

## 名張市教育委員会事務の点検・評価について

名張市では、総合計画「新・理想郷プラン」に掲げた諸施策を進めるに当たり、「行政評価」により計画の達成度や効率性などの客観的な評価を行いながら、計画目標の達成に向けて効果的・効率的な行政運営を進めています。

名張市教育委員会においては、市が実施する行政評価の結果や施策評価シート等の基礎資料を活用し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、「名張市教育委員会事務の点検・評価報告書」を作成し、公表することとしています。

教育委員会では、「新・理想郷プラン」に掲げる基本目標のひとつである「豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち」の実現に向けて、第一次基本計画に定める1.生きる力を育む教育の推進、2.生涯学習・生涯スポーツの推進、3.市民文化の創造、の3つの基本政策を構成する①学校教育、②青少年健全育成、③生涯学習、④生涯スポーツ、⑤文化振興の5つの施策を担当しています。

本報告書は、平成30年6月（平成29年度実績）に作成しました施策評価管理シートを基に第一次基本計画の最終年度となる平成30年度までの事業実施を見据え、施策指標（目標）の進捗率や名張市の行政評価委員会による総合評価等の内容を踏まえた再点検を行い、作成しました。

注）進捗率は、施策指標（目標値）に対し、当該年度（実績値）が市総合計画の基本計画策定時（現状値）からどれだけ伸びているか（減っているか）指標の進み具合を下記計算式により数値化したものです。

$$\text{(計算式)} \quad \frac{\text{実績値 (2017 (平成 29) 年度)} - \text{現状値 (2014 (平成 26) 年度)}}{\text{目標値 (2018 (平成 30) 年度)} - \text{現状値 (2014 (平成 26) 年度)}} \times 100$$

## 平成30年度 教育委員会事務の点検・評価項目

	ページ
<施策1> 学校教育	3
<施策2> 青少年健全育成	6
<施策3> 生涯学習	8
<施策4> 生涯スポーツ	10
<施策5> 文化振興	13

## <施策1>

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生きる力を育む教育の推進
施 策	学校教育

### 1. 【基本方針】

- ・夢に向かって主体的に学び続ける子どもの育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。
- ・持続発展可能な社会の実現のため、E S D（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた、環境教育、国際理解教育、情報教育等の充実を図るとともに、家庭、地域と連携して特色ある学校づくりに取り組みます。
- ・学校、家庭、地域、関係機関等、市民総ぐるみで子どもの育ちを支援し、地域コミュニティづくりの核としての学校づくりを推進します。
- ・小学校教育から中学校教育への円滑な接続等、義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進します。
- ・特別な支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を推進するとともに、保護者や関係機関と連携して、途切れのない支援に取り組みます。



### 2. 【主な取組の成果】

- ・保護者や地域の皆様との協議も踏まえて、規模・配置適正化後期実施計画の一部見直しを行い、説明会や懇談会を開催するなど適正化に向けた取組を進めました。
- ・快適な学習環境確保のため、小中学校への空調設備の整備に向けた設計業務を行いました。また、中学校給食センターの整備に向けて関係部署により検討を開始しました。
- ・平成29年度に作成・配付したリーフレットをもとに、「名張市版小中一貫教育ブランドデザイン」を作成しました。つつじが丘小学校・南中学校においては、平成29年度までの研究の成果をもとに、めざす子ども像やそれを実現するための取組等を再度見直し、本格実施へと移行しました。他の中学校区においても、校区の実態に応じて、小中一貫教育アドバイザーを招聘したり、担当者会、合同研修会等を開催したりしながら導入の準備を進めました。
- ・平成30年度も、国・県の補助事業を活用して、コミュニティ・スクールの導入に向けた市の体制づくりを進めるとともに、学校運営協議会設置校の成果と課題を検証しながら、市内全小中学校への学校運営協議会設置に向けた調査・研究を進めることができました。
- ・ふるさと学習「なばり学」の上巻を使い、市内各小学校で試行しました。さらに、平成31年度から市内全小中学校全学年で試行できるように、下巻を刊行し、配付しました。
- ・子育て支援研修講座の3回目を土曜日に開催し、37名の参加がありました。保護者だけでなく、教職員も参加していただきました。

— 施策推進のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	小中一貫教育推進事業	学校教育室	子どもの育ちに合った義務教育9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方について調査研究を行う。	継続 (現行)
2	ふるさと学習「なばり学」創設事業	学校教育室	名張市の自然や歴史、産業・伝統・文化、人から生き方を学ぶことで、ふるさとへの愛着とそれらを引き継いでいく一人であるという意識の醸成を図る。	継続 (新事業へ移行)
3	基礎学力向上支援事業	学校教育室	全国学調や新体力テストの実施により、児童生徒の強み・弱みを把握し、指導改善に生かしながら学力向上・体力向上の取組を推進する。	継続 (現行)
4	小学校ALT派遣事業	学校教育室	外国語指導助手を派遣し、コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の充実を図る。	継続 (拡大)
5	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育室	地域とともにある学校づくりのため、学校運営協議会の設置、充実に向けた取組を推進する。	継続 (拡大)
6	生徒指導充実推進事業	学校教育室	市内全児童生徒にQ-U調査を実施し、改善の取組実施により、学校に対する満足度を高める。	継続 (現行)
7	小中学校空調設備整備事業	教育総務室	児童生徒の学校生活での学習環境を確保するため教室に空調設備を整備する。	継続 (現行)
8	教育研究事業	教育センター	教育課題に迅速かつ適切に対応していくため、教育力の向上を目指す。	継続 (現行)
9	ぱりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト	学校教育室	就学前から小学校へのスムーズな接続を実現させるため、元小学校教員の「ピカ1先生」が保育所等を巡回する。	継続 (現行)

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合（％）	目標	—	—	—	65.0	54.4%
	成果	59.3	56.2	62.4		
不登校児童生徒の割合（％）	目標	—	—	—	1.10	100.0%
	成果	1.27	0.84	0.97		
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合（小学校）（％）	目標	—	—	—	28.0	78.1%
	成果	14.3	20.4	25.0		
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合（中学校）（％）	目標	—	—	—	6.0	38.3%
	成果	0.0	2.2	2.3		

#### 4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・学校の規模・配置の適正化後期実施計画は平成 32 年度までを目途としており、関係の保護者や地域の皆様と充分協議のうえ、計画を推進する必要があります。
- ・学校生活における快適な学習環境確保のため、空調設備の整備、中学校給食センターの整備を計画的に実施するとともに、建築後相当年数を経過している多くの学校施設の老朽化対策や災害時も視野に入れ、ユニバーサルデザインへの対応を図るなど、全ての市民が安全・安心に利用できる施設整備が必要となっています。
- ・小中一貫教育の本格実施に移行した南中学校区の他、すべての中学校区に小中一貫教育の目的やねらいの理解を促進し、小中学校の教職員が校種を越えて義務教育 9 年間の「学び」と「育ち」に係わるという意識を高め、子どもの実態を共有したり、めざす子ども像や教育目標を策定したりする等、校区の実態に応じて進めることから進めていく必要があります。
- ・コミュニティ・スクールの未設置校への設置及び設置校の取組の充実を目指して支援を推進する必要があります。
- ・2020 年度からのふるさと学習「なばり学」の完全実施に向けて、地域の皆様に協力いただきながら実施できるよう、引き続き体制づくりを行う必要があります。
- ・平成 29 年度の子育て支援研修講座の 3 回目は、土曜日開催としましたが、幼稚園・保育所の運動会と重なったため参加できなかったとの声がありました。学校・幼稚園等の行事と重ならないよう、時期を考慮する必要があります。

#### 5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・空調設備の整備など教育環境の充実を計画的に進めるとともに、学校の規模・配置の適正化後期実施計画については、保護者、地域から十分な理解を得られるよう引き続き努めること。

#### 6. 【今後の方向性】

- ・教育の機会均等や教育水準の確保、教育の質の向上を目的として進めている学校の規模・配置の適正化について、計画の更なる見直しも視野に入れて保護者や地域の皆様と十分に協議し、計画を推進します。
- ・学校の空調設備の整備、老朽化対策やユニバーサルデザインへの対応など安全・安心な学習環境のための施設整備を計画的に進めます。また、中学校給食導入に向けた検討を引き続き進めます。
- ・2020 年度に向けて、特に南中学校区以外への小中一貫教育の導入準備を計画的に進めます。小中一貫教育アドバイザーや指導主事が各中学校区の担当者会等に積極的に参加し、導入に係る教職員の意識、進捗状況等を把握するとともに、スムーズな導入のための指導・助言を行います。
- ・市内全小中学校の学校運営協議会設置に向けて、国・県の補助事業を活用し、準備を進めるとともに、学校運営協議会設置校の取組が更に充実するように、引き続き支援を進めます。
- ・教職員によるふるさと学習「なばり学」担当者会を開催するなどして、ふるさと学習「なばり学」の効果効率的な実施を目指します。
- ・子どもに関わる多くの人に参加していただけるよう、内容の充実や実施日の工夫などを行い、子育て支援研修講座を引き続き開催します。

## <施策2>

政 策 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち  
基本施策 生きる力を育む教育の推進  
施 策 青少年健全育成

### 1. 【基本方針】

- ・次世代を担う青少年は、かけがえの無い存在であり、心身ともに健やかに成長することは、市民一人ひとりの願いです。青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化するなかで、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組めます。



### 2. 【主な取組の成果】

- ・放課後子ども教室を地域づくり組織の協力のもと市内6地区8小学校区で実施しました。
- ・ジュニアリーダー養成講座（全2回）を開催し、17名が修了しました。また、養成講座を修了した者の多くが所属し、活動している名張 Kids サポータークラブ（ジュニアリーダークラブ）の運営支援や、活動の場の提供に取り組み青少年ボランティアの育成に努めました。
- ・子どもを守る家事業の普及に努めました（協力者件数 1,906件）。また、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を行いました（年間延べ参加者数929名）。

### — 施策推進のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	青少年健全育成事業	文化生涯学習室	非行防止、環境浄化活動により安心安全な環境づくりに取り組み、青少年の健全育成を図る。	継続 (現行)
2	放課後子ども支援事業	文化生涯学習室	安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の参画を得て、子どもたちと地域住民の交流活動等の取組を推進する。	継続 (現行)
3	成人式行事経費	文化生涯学習室	式典開催により、新成人に大人としての自覚を促し、責任ある行動、社会参画の意識の醸成を図る。	継続 (現行)

### 3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
青少年の健全な育成に向けた取組が行われていると感じる市民の割合（％）	目標	—	—	—	50.0	
	成果	42.7	45.5	41.5		0.0%
ぐ犯・不良行為少年数（人）	目標	—	—	—	210	
	成果	245	129	224		60.0%
放課後子ども教室設置数（箇所）	目標	—	—	—	9	
	成果	6	6	6		0.0%

### 4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・放課後子ども教室について、地域づくり組織の理解を得ながら未実施地域での事業着手を進め、放課後児童クラブとの一体的な取組等検討していく必要があります。
- ・青少年の非行件数は、ここ数年減少傾向にあります。不審者情報の増加や全国的に青少年が被害者となる事件が発生しているなか、警察や学校、地域など関係機関・団体と連携し、子どもたちを見守る体制をいっそう強化していく必要があります。
- ・青少年のボランティアが継続的に活動できるよう、ボランティア意識の向上や、活動機会の提供等を支援する必要があります。また、子どもたちが社会性を身に付けるための体験活動や、子どもの居場所づくりのため、学校・家庭・地域等がさらに連携して取り組んでいく必要があります。

### 5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・関係機関・団体間で情報共有をしながら、さらなる連携を深め、子どもたちを地域ぐるみで見守る体制強化に引き続き努めること。

### 6. 【今後の方向性】

- ・放課後子ども教室については、子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごし、より多様な体験活動を行うことができるよう、放課後児童クラブとの一体的な取組も視野に入れ、関係部局との連携を一層密にして取組を推進します。
- ・ジュニアリーダー養成講座の修了者が継続的に社会参加できるように、名張 Kids サポータークラブへ活動機会の提供などの支援を引き続き行います。
- ・地域ぐるみで子どもを守る取組として、子どもを守る家事業の普及による不審者対策や、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで非行や犯罪から子どもを守る体制の充実・強化に努めます。また、ふれあい隊・青少年補導センター・警察・学校等の関係機関・団体間での情報共有など、さらなる連携を深めて子どもを守る体制を強化します。

### <施策3>

**政 策** 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち  
**基本施策** 生涯学習・生涯スポーツの推進  
**施 策** 生涯学習

#### 1. 【基本方針】

- ・市民一人ひとりが自らの資質の向上や学習を通して多様な交流を広げ、心かよう地域社会の進展のために、生涯学習のまちづくりを進めます。
- ・生涯学習活動を進めるための情報提供や、学び続けることのできる環境の整備を進めるとともに、身に付けた知識や経験を社会で生かすことができる仕組みづくりに取り組みます。



#### 2. 【主な取組の成果】

- ・各地域の市民センターが生涯学習の場としての役割を果たせるよう、生涯学習リーダーをはじめ、市民センター職員対象に生涯学習研修会を2回実施し職員のスキルアップに努めました。
- ・生涯学習講座として「なばりカレッジ」を実施し、全8講座、50人が受講され、伝統文化や文化財だけではなく、自然や産業から名張を再発見する講座を開催、また、皇學館大学と連携をして「ふるさと講座」を2回実施、市民の生涯学習活動を推進しました。
- ・市立図書館の市民一人当たりの貸出冊数は微減傾向が続いており6.4冊となりました。図書リクエストや読書相談等を通じてニーズを把握し、図書購入や他図書館からの取寄せにより、市民が必要とする情報の提供に努めました。

#### — 施策推進のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	生涯学習推進事業	文化生涯学習室	人材の育成や家庭教育の充実など、地域課題等について学習機会を提供し、市民センター活動や地域組織活動の充実を図る。	継続 (現行)
2	学校支援地域本部事業	文化生涯学習室	地域住民が学校を支援する体制を構築することにより、学力の定着・向上を図るとともに地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備し、地域の活性化を図る。	継続 (現行)
3	図書館運営費	図書館	資料(書籍)を収集・整理、保存し、市民の利用に供して学習機会の保障と文化の発展に寄与する。	継続 (拡大)



### 3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合 (%)	目標	—	—	—	46.0	
	成果	44.5	45.1	42.5		0.0%
市民センター等における家庭教育講座の講座数（講座） 【延べ数】	目標	—	—	—	90	
	成果	75	84	85		66.7%
市民1人あたりの年間図書貸出冊数（冊）	目標	—	—	—	7.0	
	成果	6.7	6.5	6.4		0.0%

### 4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・引き続き各地域の市民センターを生涯学習活動の拠点と位置づけ、市民が主体的に生涯学習を行えるよう、支援する必要があります。市民団体や、皇學館大学をはじめとする高等教育機関との連携も密にし、生涯学習の推進、地域課題の解決に向けた取り組みが必要です。
- ・カウンター業務等を委託している民間事業者と協働して、広く市民の声を聴き、積極的にサービスに反映することで、多様な学習意欲に応えられる図書館サービスを展開する必要があります。また、「第三次名張市子ども読書活動推進計画」を進めるにあたり、全国的に読書離れが指摘されている中高生の利用率向上に向けた読書環境の整備が必要です。

### 5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・市民センターが各地域の生涯学習の場としての役割を果たし、その学習した成果を地域に還元できる仕組みづくりと人材養成に引き続き努めること。

### 6. 【今後の方向性】

- ・各地域の市民センターで学ぶ人たちのネットワークの形成と学んだ知識を生かす活動ができる仕組みづくりを進めるため、お互いの活動内容を発表しあう交流会等を計画し、市民センター相互の情報交換・情報共有を図ります。
- ・ふるさと名張の歴史や文化を学ぶ講座の「なばりカレッジ」を、高等教育機関等との連携を密にし、市民の学びのニーズに対応できる内容とします。
- ・図書館資料の収集にあたっては、対象年齢や分野等、蔵書構成のバランスに配慮し、計画的な収集に努めるとともに、県内外の図書館とのネットワークを活用した資料の相互貸借を推進するなどして、図書館サービスの充実に努めます。

## <施策4>

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生涯学習・生涯スポーツの推進
施 策	生涯スポーツ

### 1.【基本方針】

- ・市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。
- ・市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に取り組めます。



### 2.【主な取組の成果】

- ・総合型地域スポーツクラブを本年度も新たに1団体認定し、市民がより身近に、継続したスポーツに親しめる環境整備を進めました。
- ・体育健康フェスタ・名張ひなち湖紅葉マラソンや名張市スポーツ推進委員協議会主催のおきつもウォーキング等、例年開催しているスポーツ関連行事に加え、平成29年度は、1,710名の市民とともに夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催しました。また、シニアスポーツ大学講座を開講し、スポーツの基礎を学ぶ座学やホッケー・弓道の実技体験を行うなど全10回の講座を行い、27名を地域のスポーツリーダーとして養成しました。さらにホッケーフェスティバルを開催し、国内のトップチームによる親善試合や同チームの選手を指導者としたホッケースクールを約70名の小中学生の受講生を対象に実施し、ホッケー競技の普及啓発を行いました。
- ・三重とこわか国体並びに全国障害者スポーツ大会に向けて、三重県、関係機関や団体等と連携し、開催に向けた調査研究等を進めてきました。また、体育健康フェスタ、とれたて！なばり及び教育フォーラムにおいて、ホッケー・弓道の各体験コーナー及びその他名張市で開催する国体競技に関する啓発コーナーを開設し、市民への普及啓発に取り組みました。
- ・体育施設については、スポーツを通じた市民の交流拠点として、また誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、市民陸上競技場のスタンド・トイレの整備等、施設のユニバーサルデザインを意識した整備を行いました。

## — 施策推進のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	スポーツ活動振興費	市民スポーツ室	市民の健康づくりの意識高揚、体力向上、健康の保持・増進を図る。	継続 (改善)
2	総合型地域スポーツクラブ創設支援事業	市民スポーツ室	地域におけるスポーツ活動の拠点並びに地域交流の場を提供し、積極的な地域スポーツ振興を図る。	継続 (改善)
3	体育施設管理費	市民スポーツ室	総合体育館等体育施設の円滑な運営と施設の安全管理により、利用者の適切なサービス提供を行う。	継続 (現行)
4	武道交流館いきいき管理費	市民スポーツ室	武道関係者、市民の心身の鍛錬・競技力向上や、スポーツ活動等を通じてコミュニティの醸成を図る。	継続 (現行)
5	保健体育総務一般経費	市民スポーツ室	スポーツ・レクリエーション活動の普及と、円滑な運営及び市民の健康増進を図る。	継続 (改善)
6	市民陸上競技場スタンド改修事業	市民スポーツ室	生涯スポーツを通じた市民の健康づくりや交流の機会提供のため、ミーティングルーム・更衣室・放送室を整備する。	事業完了
7	三重国体準備事業	国体準備室	2021年に三重県で開催される第76回国民体育大会に向け、競技開催並びに来場等に関する事前準備を実施する。	継続 (拡大)

### 3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値	2016	2017	2018	進捗率
		(H26)	(H28)	(H29)	(H30)	
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合（％）	目標	—	—	—	43.0	
	成果	41.5	37.8	43.8		100.0%
市民1人あたりの年間体育施設利用回数（回）	目標	—	—	—	5.0	
	成果	4.4	4.5	4.8		66.7%
総合型地域スポーツクラブの認定団体数（団体）	目標	—	—	—	5	
	成果	2	3	4		66.7%

### 4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・例年開催しているスポーツ関連行事のうち、体育健康フェスタについて、被表彰者がより多くの集客があるとれたて！なばりでの顕彰を行うなど実施内容の見直しも含めた取組が必要です。
- ・体育施設の維持管理を行う中で、市民陸上競技場の夜間照明設備の不具合により、利用者の夜間利用に支障をきたしています。また、老朽化が進んでいる体育施設の改修について、三重とこわか国体開催を見据え、必要な財源を確保しながら、早急に進めていく必要があります。
- ・三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の市民への普及啓発の更なる強化に取り組む必要があります。

## 5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・現行通り施策の取組目標の達成に向け、各事業の推進を図ること。

## 6. 【今後の方向性】

- ・総合型地域スポーツクラブや各種団体等との連携を図りながら、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。また、日常生活にスポーツを取り入れ、継続して活動できる環境づくりに取り組みます。
- ・例年開催しているスポーツ関連行事のうち、体育健康フェスタに関して、福祉子ども部と連携しながら、実施内容も含めた見直しに取り組みます。また、その他のスポーツ関連行事についても、「名張ケンコー！マイレージポイント」の活用等を通じて、市民がスポーツに触れる機会の充実に取り組みます。
- ・障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力向上を目指します。
- ・体育施設については、利用者の安全確保を第一に、引き続き適切な維持管理に努めながら、誰もが安心してスポーツに親しめる環境整備に引き続き取り組みます。

## <施策5>

政 策 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち  
基本施策 市民文化の創造  
施 策 文化振興

### 1. 【基本方針】

- ・文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- ・名張らしさのあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- ・多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着を感じられるふるさとづくりを創造します。



### 2. 【主な取組の成果】

- ・郷土資料館では、常設展示に加え、企画展を6回開催し、また、子ども向けの体験学習を常時開設し、利活用の促進を図りました。併せて、館外においても地域のイベント、団体での来館が難しい放課後児童クラブ等への出張も実施しました。
- ・平成29年度の文化財指定・登録においては、国登録有形文化財(建造物)に2件(4棟)、市指定有形文化財(書跡)に1件の追加がありました。
- ・観阿弥創座の地 名張で、名張市観阿弥顕彰会の名張子ども狂言の会が能楽の顕彰活動を行っていますが、名張ユネスコ協会にその活動が評価され、【なばりのたからもの】に認定されました。それを受け、また、活動25年以上の成果を披露するため、10月22日に『名張能楽祭～なばりのたからもの～名張子ども狂言の会』を開催。先輩たちの出演や茂山七五三先生の出演もあり、たくさんの入場者を得ました。
- ・美術展覧会は60回目を迎え、プレイベントとして《みえ県展 名張移動展》を6月10日～14日まで、名張で初めて開催。県内の市町での移動展開催は名張が9番目でありましたが、5日間で1,548名が入場し、過去最高の入場者数であったと評価を得ました。また、『名張子ども伝統芸能祭り』や市民文化祭も開催し、市民の芸術文化に親しむ機会を提供しました。
- ・adsホールは吊天井落下防止対策工事と音響設備改修工事を実施し、施設設備の充実を図りました。

## — 施策推進のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	ふるさと能文化振興事業	文化生涯学習室	「能楽のふるさとづくり」を目指して、伝統文化の伝承・発展や市民の充実した文化活動ができるよう支援を行う。	継続 (現行)
2	青少年センター管理費	文化生涯学習室	市民の芸術文化活動を支える拠点施設の青少年センター（ads ホール）の適切な管理運営を行う。	継続 (現行)
3	文化振興費	文化生涯学習室	市民文化祭及び市美術展覧会を開催し、創作活動の発表及び鑑賞の機会を提供し、文化の発信と市民文化の向上を図る。	継続 (現行)
4	文化財保護費	文化生涯学習室	文化財指定や指定文化財の維持管理を行い、指定文化財を良好な形で後世に伝えるとともに、地域のシンボルとして活用を図る。	継続 (現行)
5	青少年センター音響設備改修事業	文化生涯学習室	青少年センター（ads ホール）の老朽化に伴い舞台音響設備等の改修を行う。	事業完了
6	青少年センター吊天井落下防止対策事業	文化生涯学習室	青少年センター（ads ホール）の天井脱落対策に係る改修を行う。	事業完了
7	郷土資料館整備事業	文化生涯学習室	埋蔵文化財等を広く市民に公開、活用するため設置した郷土資料館の多目的トイレ、図書室等を整備する。	事業完了

### 3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値	2016	2017	2018	進捗率
		(H26)	(H28)	(H29)	(H30)	
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合（％）	目標	—	—	—	33.0	100.0%
	成果	30.9	40.0	44.0		
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数 (人【延べ数】)	目標	—	—	—	368,000	99.7%
	成果	287,792	328,624	367,771		
美術展覧会出展数（点【延べ数】）	目標	—	—	—	2,100	87.1%
	成果	1,420	1,722	2,012		

### 4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・文化資源の活用面については、年に複数回若しくは昨年度と今年度等、特に小学校の学級単位との交流が増加しています。反復し学ぶこと、また、進級に応じた内容にするなど、活用回数のもとより効果的な学習が行なえたと考えております。「なばり学」との連携を含め、今後も最大限活用してまいります。
- ・恒例となる『名張子ども伝統芸能祭り』も平成29年度には8回目を迎え、子どもたちの活動をadsホールという大きな舞台で開催することにより、日頃の練習の成果を披露するとともに、今後ますます伝統芸能に対する意識の向上を図ります。
- ・今年度の施設改修により、adsホールの充実した施設をたくさんの方々にご利用いただくとともに、いろいろなジャンルの事業を計画し、文化振興の拠点として事業

展開を進めます。

## 5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・現行通り施策の取組目標の達成に向け、各事業の推進を図ること。

## 6. 【今後の方向性】

- ・郷土資料館は、来館者が年々微増しているものの、依然3千人弱と決して多くはない状況です。平成30年度に導入した中型スクールバス2台の活用はもちろんのこと、展示の充実、広報の強化等を継続して行なってまいります。
- ・観阿弥顕彰会、美旗のまちづくりや地元と協力し、『観阿弥祭』を開催するなど、能楽のふるさとづくりを推進するとともに、関係者との交流を図ることで、能楽振興と次世代への継承に努めます。
- ・『第60回市美術展覧会』において、伊賀つばさ学園の生徒の作品を特別展示しましたが、高校生の出品も年々増えつつあります。高校のクラブ顧問に面談し、作品出品を依頼するなど美術展覧会の発展により、市民の芸術文化の醸成につなげてまいります。
- ・青少年センター（adsホール）は、芸術文化の拠点として、市民の文化活動の発表の場やたくさんの団体、個人にご利用いただき市民の文化向上の一翼を担えるよう引き続き環境整備に取り組めます。